

アメリカ言語文化

American Studies in Language and Culture

アメリカ言語文化講座は、北米を中心とする言語文化の諸相を批評的・学際的に分析するとともに、英語教育のあり方を科学的・実践的に追究することを目指す講座です。アメリカ文学・文化の分野では、アメリカの作家・詩人らの研究に加え、アメリカ音楽、映画なども研究対象となります。英語教育の分野では、第二言語習得の科学的側面と分析手法を学ぶ一方で、コンピュータとネットワークを利用した教育の手法と教材研究などについて学ぶこともでき、理論と実践の両面の研究を行うことができます。

【授業科目】

- 現代アメリカ文化論 ●言語文化情報論 ●現代アメリカ社会史特論
- 第二言語習得演習 ●社会言語学入門 ●北米文化研究

【講座ホームページ】

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/tagen/america/>

教員と専門領域・研究テーマ

長畑明利 教授

アメリカ文学・文化／20世紀アメリカ詩／多文化社会の表象

尾関修治 教授

英語教育／コンピュータとネットを利用した教育法の開発

村尾玲美 准教授

第二言語習得論／音声言語認識メカニズムの解明

◎大学院生の研究紹介

「アメリカ言語文化講座博士後期課程 2 年生の杜河内友里です。1950 年代から 60 年代にアメリカで注目を集めたビート・ジェネレーションと呼ばれた若者達の文学や文化が、その後の世代のポピュラー・カルチャーにおいてどのように受容されているのかということをテーマに研究しています。博士前期課程では主にロック・ミュージックにおけるビート文化の受容を考察しました。博士後期課程の現在は、アメリカのコミックスにおけるビート文化の表象に焦点をあて、ビート文化受容の変遷を考察しています。」





長畑明利 教授

東京外国語大学外国語学研究所
修士課程修了。1988年名古屋大
学着任、2004年より現職。専門分
野はアメリカ文学・文化。

【長畑】モダニズム以後のアメリカ詩を中心に、文学テキストに見られる言語的特徴や、詩人・小説家の「言葉」についての考えを明らかにし、それらが持つ意味について検討する作業を進めています。これに加え、アジア系、アフリカ系など人種・エスニシティに基づく文学・文化研究や、ポピュラー・カルチャーの研究も手がけています。学生の皆さんには、自分なりの関心にしたがって、広く、またじっくりと作品を読み進めていってほしいと思います。

【尾関】現代のコミュニケーションはコンピュータやネットの利用なしにはありえなくなっています。英語学習のリソースとして、また学習コミュニティとしてのネットの利用手法、そこでの教授法や教員と学習者の役割について研究しています。一方で効果的な学習方法としてのeラーニング教材の開発や検証、学習の場としてのCALL（コンピュータ支援語学教室）やLMS（学習管理システム）を利用した授業研究も行なっています。

【村尾】言語の習得が得意な学習者と不得意な学習者はどこがちがうのでしょうか。どのような学習方法が効果的なのでしょうか。私たちは直感的に良いと思う方法で外国語を教えたり学んだりしています。直感はもちろん大事ですが、本当に効果があったのか、どういう因果関係が成り立つのか、ということについては、科学的に実証しなければわかりません。「第二言語習得演習」ではこれらの課題を科学的に検証する方法を学び、教育実践への応用について議論します。



尾関修治 教授

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。東海学園女子短期大学、福井大学教育学部、中部大学国際関係学部を経て2009年より現職。研究テーマは英語教育でのeラーニングと学習管理システム。

村尾玲美 准教授

名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程修了。早稲田大学オープン教育センター助教を経て2010年より現職。専門分野は第二言語習得論で、主な研究テーマは音声言語認識メカニズムの解明。